

# 北九州革新懇ニュース

平和・民主・革新の日本をめざす北九州の会  
 〒803-0817 北九州市小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F  
 TEL093-592-5000 Fax093-571-4346  
 E-mail k-kakushinkon@ace.ocn.ne.jp

- 全国革新懇「三つの共同目標」
1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
  2. 日本国憲法を生かし、自由と人権・民主主義が発展する日本をめざします。
  3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

## 北九州革新懇 インタビュー

**プロフィール** 山内涼成(やまうちりょうせい)さん。1965年9月生。九州産業大付九州高校卒業後、民間企業に就職。その後、エフコープ生協を経て、北九州市交通局に入局。8年間書記長で奮闘。今回補欠選挙で北九州市議会議員当選。



今年1月に行われた若松区市議補欠選挙で、昨年6月に亡くなった日本共産党の野依謙介さんの議席を大激戦の中見事に守り抜いた山内涼成市議会議員にインタビューしました。

◎経歴を見ますといろんな体験・お仕事をしてこられたようですが、子どものころから交通局に勤務していた時代までの歩みを聞かせてください。

**山内** 小学校からランドセルだけが帰宅して、日が暮れるとご飯を食べに帰ってくる毎日。  
 中学校では野球部、高校では柔道部。卒業後、濱田重工に就職し、君津へ。多くの先輩に恵まれ先輩の紹介で子どもの頃からの夢だった酪農をするため北海道へ。  
 母の病状が悪化し帰省、エフコープ生協を経て北九州市交通局に入局。3年目から組合役員となり、最後の

**8年間は書記長として携わりました。**

◎野依謙介市議が任期半ばで亡くなり補欠選挙となったわけですが、市議補欠選挙への立候補の要請があった時の気持ちはどうでしたか。

**山内** 地区委員長から来てほしいと言われ二日酔いで15分遅れで到着すると、県委員長と石田団長が待っておりただならぬ雰囲気を感じました。要請を受け、正直「自分に務まるのか」が感想。現実的には家族の承諾も必要であろうと。最後は、石田団長の「人の喜びが最大の喜びとするなら誰でもできる」のことば

に背中を押されました。

◎選挙戦をたたかった感想を聞かせてください。

山内 先輩議員の偉大さと誠実な活動ぶりを選挙戦の中で実感しました。自分の名前も知らないのに「野依謙介さんの後釜なら」と投票してくれた方が大多数だと思います。

◎議員になって3カ月、どんなことを感じられましたか。

山内 とにかくいつも見られている感じがします。そういう意味ではプライバシーはないと思います。地域の活動と議会の仕事のバランスが難しい。しかし、やりがいのある仕事ですね。

◎選挙中は奥様のご協力、娘さんの熱い応援に私たちも励まされましたが、ご家族への思いを聞かせてください。

山内 組合役員の時代から家にいることは少なかったが、子どもと遊ぶ時間がなくなったことは申し訳ないと思います。何よりも家族が新聞を読むようになったことが嬉しい。

不安の中で、支えてくれている妻に感謝。

◎これからの抱負・決意をお聞かせください。

山内 地域のみなさんに信頼される議員になりたい。そのためにはしっかりと勉強し、ひとりでも多くの人に「ありがとう助かったよ」と言われるように頑張りたいです。まだまだ議会も暫定予算の1回のみ、6月の予算議会で初質問に立ちます。是非とも傍聴にお越しく下さい。

山内涼成市議は4月末からNPT再検討会議に出席のためニューヨークへ。その感想などは、またの機会に伺いたいと思います。

細い目に笑顔、ユーモアいっぱい、49歳のイケメン！？議員。

若松区民・北九州市民の思いを議会へ届け、山積した問題解決のため活躍してくれることでしょうか。私たちも山内議員と共に安心して暮らせる街づくりのため力を合わせていきたいと思っています。

## 沖縄県高江・辺野古への激励連帯訪問 八幡西革新懇 参加者(嶋、牟田、池村)

八幡西革新懇では、3月10日から3泊4日で沖縄を激励訪問しました。訪れた所は、高江、辺野古、沖縄革新懇、不屈館、普天間基地、嘉手納基地、南部戦跡。2月に全国革新懇が訪沖しています。八幡西革新懇でも沖縄行きが話題になっていましたが、とにかく現地に出かけ、激励したいということで、先

文責 池村好順  
発隊として3人(嶋、牟田、池村)が行くことになりました。

◆3月10日は雪が舞う寒い日。その日の午後那覇到着。初日の沖縄、風も強く寒い日だった。

◆翌日11日(水)午前、東村高江訪問

・那覇からは車で約3時間。緑豊かな原生林の森。その真ん中を整備された道路が続く。間もなくテントが見えて来た。伊佐さんを含め4人が出迎えてくれた。最初に儀保さんの説明。東村の北半分と国頭村の西側大半が米軍の基地。そして、国有地。国有地の中に米軍の基地を造らせ、村人を周辺に押し出し、立ち入りを禁止している。

・次に伊佐さんの話

映画「標的の村」で紹介されていた内容を、本人が説明をしてくれた。……。オスプレイが通過すると、壁が振動する。東村の村長は容認派。伊佐さんが村議になって、「使用させない」が議会で全会一致となった。テント内に天然記念物、野鳥「アカヒゲ」が挨拶にきた。報道ステーションの取材スタッフ。沖縄の基地問題を特集するらしい。2時間程の交流だった。

#### ○同日午後 名護市辺野古テント村を訪問

☆辺野古へ移動。車で約一時間程度。車が頻繁に通るキャンプ・シュワブのゲート前。日本人の警備員約10名前後が規制。よく見ると、基地内に撮影機器が設置されている。基地前の道を挟んで反対側に基地反対テント村が設営され、約100人程度の参加。現地リーダーの山城さん（以前、不当に拘束された一人）が、午後からの応援者を皆さんに紹介。代表して嶋さんが挨拶。座り込みをしている人たちから拍手が起こった。新潟からも若者が参加。翌日、掘削工事再開という大変な事態が起こっている。

○同日4時：沖縄革新懇・仲山弁護士と懇談  
・沖縄革新懇は、憲法反対の取り組みを強め、沖縄教科書問題にも取り組んだ。全国革新懇も2月やってきた。県知事選、全国から680万円のカンパ。沖縄だけの問題ではない。この国の在り方を根本から問うている。9条を守るたたかい、憲法をどう守っていくかにつながる。若い人を現場に。現場でたたかうこと、民主主義を守るたたかい。平和的生存権の獲得のたたかい。

「鈍角のたたかい！」—非暴力のたたかい(非



武)の文化に支えられている。9条の精神。非暴力を文化として。復帰前から鍛われてきた。「命どう宝」

憲法9条がない！ ない状況が、どんなことを生むのか。それが沖縄。今後、7月取り消し。工事の権利がなくなる。国が知事を相手に訴訟。その間工事は中断。世論が広がるはず。正念場。沖縄問題から安倍の首をとる。  
☆一日で、高江・辺野古・沖縄革新懇を巡った。相手の都合もあり仕方ない。

◆12日は南部戦跡と不屈館。ひめゆりの塔、平和公園の資料館はゆっくり見てほしい。近くにある「魂魄の塔」も是非。瀬長亀次郎記念館、必見である。沖縄の歴史がつながってくる。

◆最終日の13日。嘉手納基地と普天間基地を確認した。普天間基地を見ることができた所を見つけた。佐喜真美術館と嘉数高台公園。ここから一望できる。「銃剣とブルドーザー」で強奪した基地を。

☆まとめ—日本国憲法9条が及ばないオキナワがあった。悲惨な歴史を背追っている。新基地建設反対の運動は、「戦争する国づくり」を許さないたたかいに直結する。安倍政権打倒のたたかいでもある。今回の訪問、学ぶものが本当に多かった。各区でも「沖縄激励連帯の旅」を企画してみれば。連帯の一步が確実に始まる。



# 歴史的な大闘争で「戦争立法」を必ず阻止しましょう 国民のみなさんによびかけます

2015年4月27日 全国革新懇代表世話人会

国民のみなさん。

すべての革新懇と賛同団体のみなさん。

安倍内閣は、日本を「海外で戦争する国」にするための一連の法案＝「戦争立法」を今国会に提出し、会期を大幅延長してでも成立させようとしています。「戦争立法」は、憲法を破壊する希代の悪法であり、絶対に阻止しなければなりません。全国革新懇は、「戦争立法反対」の一点で共同し、国民的大運動を巻き起こし、安倍政権の野望を打ち砕くことをこころからよびかけます。

「戦争立法」は、自民党政府自身が、憲法9条のもとでは禁じられているとしてきた「戦闘地域」での軍事行動にも、自衛隊が参加できるようにするなど、従来課せられてきた「歯止め」をいっさい取り払おうとしています。自衛隊は「戦闘地域」で米軍を支援するようになり、「殺し殺される」こととなります。任務遂行のための武器使用、弾薬輸送、戦闘のため発進する戦闘機への給油も可能になります。また地理的制約もなくし、地球の裏側でさえ米軍支援に踏み出そうとしています。国会審議も秘密保護法のもとで真実が隠されます。

重大なことは、日本が武力攻撃を受けていないにもかかわらず、アメリカの戦争に参戦する「集団的自衛権」を発動する体制をつくらうとしていることです。アフガニスタン戦争やイラク戦争などアメリカが先制攻撃して引き起こした侵略戦争であっても、政府の勝手な判断で自衛隊の参戦に道を開くものです。

まさに「戦争立法」は、アメリカが世界のどこで、どんな戦争をしても、いつでも自衛隊が軍事支援する体制を一挙につくらうとするものです。

戦後70年を迎えたいま、平和と民主主義を守るかどうか——日本の命運を左右する歴史的な岐路にたっています。戦後、海外の実戦で自衛隊が一発の弾丸も撃たず、一人の戦死者も出さず、一人も殺さなかったからこそ、日本は世界で信頼を得てきました。これを投げ捨てるかどうか、日本のあり方が根本から問われています。

安倍内閣の暴走は、沖縄・辺野古新基地建設でも、くらしと雇用の問題でも、あらゆる分野で国民の抵抗をよんでいます。こうした国民の運動を大きく発展させつつ、「戦争立法反対」の一致で従来にない巨大な国民的共同をつくり、必ず戦争立法を阻止しましょう。

私たちは歴史的なたたかひの先頭にたつてたたかうことを表明します。